7課 これを聞け！

11月14日

安息日午後	11月7日

暗証聖句

これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。（Ⅰコリント 10:11、新共同訳）

これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。（Ⅰコリント 10:11、口語訳）

今週の聖句

民数記 13:26～30、エレミヤ 36:20～26、歴代誌(歴代志)下 36:15、16、マタイ 23:30～35、Ⅰコリント 10:6～12

今週のテーマ

今日、ある人々は、「自分の真実」――自分の経験、考え、必要、境界、信念など、それが何であれ――を語るように勧められています。すべての「真実」は正当なものと見なされ(そう考えられており)、沈黙させられるべきではありません。しかし、深く信じられているこのような「真実」の一部が、真理なるイエス・キリストや、書き記された神の言葉と相容れないとき、どうなるのでしょうか。

こんなことが起きます。聖書の真理を受け入れ、自分の誤りから離れる人もいれば、自分の嘘に固執する人もいるでしょう。真理に応答して行動を変える人もいれば、真理に反抗する人もいます。これが人類の歴史でした。

聖書の預言者は、人々が聞きたがらないメッセージを伝えるよう、しばしば召されました。その結果、多くの預言者が非難され、排斥され、死の脅威にさらされたり、実際に殺されたりしました(ヘブ 11:32～38)。それでもなお、神の預言者は忠実にメッセージを宣べ伝えました。なぜなら、神の預言的な導きは、彼らにとって選択の余地のないものだったからです。それは神の民にとって命を救う教えでした。だからこそ、そのメッセージは、預言者自身にどれほどの代償が伴おうとも、伝えられなければならなかったのです。

46

ヘブ 11:32～38 （新共同訳）
11:32 これ以上、何を話そう。もしギデオ

ヘブ 11:32～38 （口語訳）
11:32 このほか、何を言おうか。もしギデ

ン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者たちのことを語るなら、時間が足りないでしょう。
11:33 信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、
11:34 燃え盛る火を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強い者とされ、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させました。
11:35 女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまさったよみがえりに達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。

11:36 また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。
11:37 彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、
11:38 荒れ野、山、岩穴、地の割れ目をさまよい歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。

オン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。
11:33 彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、
11:34 火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。
11:35 女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。
11:36 なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。
11:37 あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、
11:38（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。

日曜日　11月8日　神の使者への怒り

神に選ばれた指導者モーセは、約束の地を求めて荒れ野をさまよう種々雑多な人々を導く喜びと苦しみを知っていました。

問1　民数記 14:4～11 を読んでください。この箇所では、どんなことが起きていますか。なぜ民はモーセとアロンに憤慨しているのでしょうか。

この箇所を注意深く読むと、イスラエルの子らが神を信頼していないがゆえに、神に怒っていたことがわかります。神の究極的な主権を代表する人間であったモーセとアロンは、民の怒りの格好の標的でした。肉体的・精神的安全への欲求は、あらゆる人間が持つ根本的な動機です。そのいずれかが脅かされたとき、あるいは何かが自分の心身の健康を脅かすと感じたとき、私たちは怒り狂ったり、理性的でなくなったりすることがあります。

問2　民数記 13:26～30 を読んでください。なぜイスラエルの人々はとても恐れたのですか。カレブは彼らに、どんな励ましの言葉を伝えましたか。

イスラエルの人々は、約束の地を手に入れるに先立って前途に横たわる困難に対して、もっともな恐れを抱きました。「しかし、人が一度不信を心に抱いてしまうならば、彼らは、サタンの支配に身を委ねたのであって、どこまでサタンに引かれていくかわからないのである」(『希望への光』200ページ、『人類のあけぼの』第34章)。この時、モーセは、ほとんど乗り越えがたい指導者としての試練に直面していました。民の恐れは、じきにアロンとモーセに対する怒りへと膨れ上がり、さらには神に対する公然たる反逆へと発展しました。民が神によって選ばれた預言者/指導者に代わる新しい指導者を求めたとき(申34:10~12、民14:4)、ヨシュアとカレブは衣を引き裂き、恐れを抱きながらも、神を信頼するよう民に懇願しました――「もし、我々が主の御心に適うなら、主は我々をあの土地に導き入れ、あの乳と蜜の流れる土地を与えてくださるであろう。ただ、主に背いてはならない。あなたたちは、そこの住民を恐れてはならない」〔口語訳「もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食い物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません」〕(民14:8、9)。

物事が順調に進んでいるとき、神を信頼するのは簡単でしょう。では、災いが襲ってきたとき、あなたはどれほどよく神を信頼できるでしょうか。

47

民14:4~11　(新共同訳)

14:4 そして、互いに言い合った。「さあ、一人の頭を立てて、エジプトへ帰ろう。」

14:5 モーセとアロンは、イスラエルの人々の共同体の全会衆の前でひれ伏していた。
14:6 土地を偵察して来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブは、衣を引き裂き、
14:7 イスラエルの人々の共同体全体に訴えた。「我々が偵察して来た土地は、とてもすばらしい土地だった。
14:8 もし、我々が主の御心に適うなら、主は我々をあの土地に導き入れ、あの乳と蜜の流れる土地を与えてくださるであろう。
14:9 ただ、主に背いてはならない。あなたたちは、そこの住民を恐れてはならない。彼らは我々の餌食にすぎない。彼らを守るものは離れ去り、主が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない。」

14:10 しかし、共同体全体は、彼らを石で

民14:4~11　(口語訳)

14:4 彼らは互に言った、「わたしたちはひとりのかしらを立てて、エジプトに帰ろう」。
14:5 そこで、モーセとアロンはイスラエルの人々の全会衆の前でひれふした。

14:6 このとき、その地を探った者のうちのヌンの子ヨシュアとエフンネの子カレブは、その衣服を裂き、
14:7 イスラエルの人々の全会衆に言った、「わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。
14:8 もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。
14:9 ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食い物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません」。
14:10 ところが会衆はみな石で彼らを撃

打ち殺せと言った。主の栄光はそのとき、臨在の幕屋でイスラエルの人々すべてに現れた。
14:11 主はモーセに言われた。「この民は、いつまでわたしを侮るのか。彼らの間で行ったすべてのしるしを無視し、いつまでわたしを信じないのか。
民 13:26～30　（新共同訳）
13:26 パランの荒れ野のカデシュにいるモーセ、アロンおよびイスラエルの人々の共同体全体のもとに来ると、彼らと共同体全体に報告をし、その土地の果物を見せた。
13:27 彼らはモーセに説明して言った。「わたしたちは、あなたが遣わされた地方に行って来ました。そこは乳と蜜の流れる所でした。これがそこの果物です。
13:28 しかし、その土地の住民は強く、町という町は城壁に囲まれ、大層大きく、しかもアナク人の子孫さえ見かけました。

13:29 ネゲブ地方にはアマレク人、山地にはヘト人、エブス人、アモリ人、海岸地方およびヨルダン沿岸地方にはカナン人が住んでいます。」
13:30 カレブは民を静め、モーセに向かって進言した。「断然上って行くべきです。そこを占領しましょう。必ず勝てます。」

申 34:10～12　（新共同訳）
34:10 イスラエルには、再びモーセのような預言者は現れなかった。主が顔と顔を合わせて彼を選び出されたのは、
34:11 彼をエジプトの国に遣わして、ファラオとそのすべての家臣および全土に対してあらゆるしるしと奇跡を行わせるためであり、
34:12 また、モーセが全イスラエルの目の前で、あらゆる力ある業とあらゆる大いなる恐るべき出来事を示すためであった。

ち殺そうとした。そのとき、主の栄光が、会見の幕屋からイスラエルのすべての人に現れた。
14:11 主はモーセに言われた、「この民はいつまでわたしを侮るのか。わたしがもろもろのしるしを彼らのうちに行ったのに、彼らはいつまでわたしを信じないのか。
民 13:26～30　（口語訳）
13:26 そして、パランの荒野にあるカデシにいたモーセとアロン、およびイスラエルの人々の全会衆のもとに行って、彼らと全会衆とに復命し、その地のくだものを彼らに見せた。
13:27 彼らはモーセに言った、「わたしたちはあなたが、つかわした地へ行きました。そこはまことに乳と蜜の流れている地です。これはそのくだものです。
13:28 しかし、その地に住む民は強く、その町々は堅固で非常に大きく、わたしたちはそこにアナクの子孫がいるのを見ました。
13:29 またネゲブの地には、アマレクびとが住み、山地にはヘテびと、エブスびと、アモリびとが住み、海べとヨルダンの岸べには、カナンびとが住んでいます」。
13:30 そのとき、カレブはモーセの前で、民をしずめて言った、「わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます」。
申 34:10～12　（口語訳）
34:10 イスラエルには、こののちモーセのような預言者は起らなかった。モーセは主が顔を合わせて知られた者であった。
34:11 主はエジプトの地で彼をパロとそのすべての家来およびその全地につかわして、もろもろのしるしと不思議を行わせられた。
34:12 モーセはイスラエルのすべての人の前で大いなる力をあらわし、大いなる恐るべき事をおこなった。

月曜日　11月9日　メッセージを破壊する(その1)

問3　エレミヤ 36:20～26 を読んでください。宮廷(口語訳:庭)では、どんなことが起きていましたか。指導者たちは、預言の警告にどう反応しましたか。

エレミヤは、滅亡が迫る時代に、〔南王国〕ユダの民に向けられた神の預言の声でした。長年にわたり、神はエレミヤを通して、ユダに対するご自分の苛立ちと、バビロンが彼らを征服し、捕囚として連れ去るであろうことを警告してこられました（エレ 6:8～19、26 章）。主は彼らを救おうとしておられましたが、そのためには、彼らが従わねばなりませんでした。

ユダの罪は、数多く、あからさまであり、変わることがありませんでした。偶像礼拝、子どもの生けにえ、姦淫、暴政が、エレミヤの時代には常態化していましたが、預言者の警告と訴えは、聞き入れられなかったのです。エレミヤの預言者としての務めが終わりに近づくにつれ、道を踏み外したご自分の子らに対する神の訴えは、ますます厳しくなりましたが、その努力は常にあがないを目的としたものでした。例えばエレミヤ32章〔参考:エレ 32:6～15 参照〕で、神はエレミヤに、土地を買ってその購入証書（買収証書）を保管せよとお命じになります――「万軍の主が、『この国で家、畑、ぶどう園を再び買い取る時が来る』と言われるからだ」〔口語訳「万軍の主、イスラエルの神がこう言われるからである、『この地で人々はまた家と畑とぶどう畑を買うようになる』と」〕（エレ32:15）。

神がエレミヤに、悔い改めと改革を求める最後通告のようなものを書かせられたのは、愛のゆえでした。ヨヤキム（エホヤキム）はこのメッセージに対して、神とそのメッセージと神の使者を軽蔑する態度を示しました。

問4　エレミヤ 36:27～31 を読んでください。神はヨヤキム（エホヤキム）の反抗的な行為に、どう応じられましたか。

私たちは時折、神のメッセージや神の使者を退けたり、破壊したりすれば、メッセージそのものも消えてしまうと考えがちです。しかし、神の預言の言葉に耳を傾けようとしないからといって、神が私たちに与えておられるメッセージが消えるわけではありません。私たちの軽蔑は、故意の無知や反抗のゆえに自分自身や家族に降りかかる災いを、一層深刻なものにするだけです。ヨヤキム王（エホヤキム王）の最期に関するエレミヤの預言は、すべての人間に重大な警告を発しています（エレ 36:30、31）。神の警告を無視すれば、わが身に危難を招きます。なぜなら、私たちは自分の罪と悪の報いを刈り取ることになるからです。

【参考】英語テキストにある文

What does it tell us about God's loving character that He persisted in trying to reach His people despite their defiance?

ご自分の民が反抗したにもかかわらず、神が粘り強く彼らに手を差し伸べようとされたことから、神の愛に満ちたご性質についてどのようなことが分かりますか。

48

エレ 36:20～26　（新共同訳）
36:20 彼らは巻物を書記官エリシャマの部屋に納めて、宮廷にいる王のもとに赴き、その言葉をすべて王に伝えた。

エレ 36:20～26　（口語訳）
36:20 そこで彼らは巻物を書記エリシャマのへやに置いて庭にはいり、王のもとへ行って、このすべての言葉を王に告げた

36:21 王はユディを遣わして、巻物を取って来させた。彼は書記官エリシャマの部屋から巻物を取って来て、王と王に仕えるすべての役人が聞いているところで読み上げた。
36:22 王は宮殿の冬の家にいた。時は九月で暖炉の火は王の前で赤々と燃えていた。
36:23 ユディが三、四欄読み終わるごとに、王は巻物をナイフで切り裂いて暖炉の火にくべ、ついに、巻物をすべて燃やしてしまった。
36:24 このすべての言葉を聞きながら、王もその側近もだれひとり恐れを抱かず、衣服を裂こうともしなかった。
36:25 また、エルナタン、デラヤ、ゲマルヤの三人が巻物を燃やさないように懇願したが、王はこれに耳を貸さなかった。
36:26 かえって、王は、王子エラフメエル、アズリエルの子セラヤ、アブデエルの子シェレムヤに命じて、書記バルクと預言者エレミヤを捕らえようとした。しかし、主は二人を隠された。

エレ 6:8～19　（新共同訳）

6:8 エルサレムよ、懲らしめを受け入れよ。さもないと、わたしはお前を見捨て/荒れ果てて人の住まない地とする。」

6:9 万軍の主はこう言われる。「ぶどうの残りを摘むように/イスラエルの残りの者を摘み取れ。ぶどうを摘む者がするように/お前は、手をもう一度ぶどうの枝に伸ばせ。」
6:10 誰に向かって語り、警告すれば/聞き入れるのだろうか。見よ、彼らの耳は無割礼で/耳を傾けることができない。見よ、主の言葉が彼らに臨んでも/それを侮り、受け入れようとしない。
6:11 主の怒りでわたしは満たされ/それに耐えることに疲れ果てた。「それを注ぎ出せ/通りにいる幼子、若者の集いに。男も女も、長老も年寄りも必ず捕らえられる。

6:12 家も畑も妻もすべて他人の手に渡る。この国に住む者に対して/わたしが手を伸ばすからだ」と主は言われる。

ので、
36:21 王はその巻物を持ってこさせるためにエホデをつかわした。エホデは書記エリシャマのへやから巻物を取ってきて、それを王と王のかたわらに立っているすべてのつかさたちに読みきかせた。
36:22 時は九月であって、王は冬の家に座していた。その前に炉があって火が燃えていた。
36:23 エホデが三段か四段を読むと、王は小刀をもってそれを切り取り、炉の火に投げいれ、ついに巻物全部を炉の火で焼きつくした。
36:24 王とその家来たちはこのすべての言葉を聞いても恐れず、またその着物を裂くこともしなかった。
36:25 エルナタン、デラヤおよびゲマリヤが王にその巻物を焼かないようにと願ったときにも彼は聞きいれなかった。
36:26 そして王は王子エラメルとアゾリエルの子セラヤとアブデルの子セレミヤに、書記バルクと預言者エレミヤを捕えるようにと命じたが、主は彼らを隠された。

エレ 6:8～19　（口語訳）

6:8 エルサレムよ、戒めを受けいれよ。さもないと、わたしはあなたから離れ、あなたを荒れ地とし、住む人のない地とする」。
6:9 万軍の主はこう言われる、「ぶどうの残りを摘みとるように、イスラエルの残りの民をのこらず摘み取れ。ぶどうを摘みとる人のように、あなたの手をふたたびその枝に伸ばせ」。
6:10 わたしはだれに語り、だれを戒めて、聞かせようか。見よ、彼らの耳は閉ざされて、聞くことができない。見よ、彼らは主の言葉をあざけり、それを喜ばない。
6:11 それゆえ、わたしの身には主の怒りが満ち、それを忍ぶのに、うみつかれている。「それをちまたにいる子供らと、集まっている若い人々とに漏らせ。夫も妻も、老いた人も、年のひじょうに進んだ人も捕えられ、
6:12 彼らの家と畑と妻とは共に他人に渡る。わたしが手を伸ばして、この地に住む者を撃つからである」と主は言われる。

6:13「身分の低い者から高い者に至るまで/皆、利をむさぼり/預言者から祭司に至るまで皆、欺く。

6:14 彼らは、わが民の破滅を手軽に治療して/平和がないのに、『平和、平和』と言う。
6:15 彼らは忌むべきことをして恥をさらした。しかも、恥ずかしいとは思わず嘲られていることに気づかない。それゆえ、人々が倒れるとき、彼らも倒れ/わたしが彼らを罰するとき/彼らはつまずく」と主は言われる。
6:16 主はこう言われる。「さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ/どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。」しかし、彼らは言った。「そこを歩むことをしない」と。
6:17 わたしは、「あなたたちのために見張りを立て/耳を澄まして角笛の響きを待て」と言った。しかし、彼らは言った。「耳を澄まして待つことはしない」と。
6:18「それゆえ、国々よ、聞け。わたしが彼らにしようとすることを知れ。
6:19 この地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災いをもたらす。それは彼らのたくらみが結んだ実である。彼らがわたしの言葉に耳を傾けず/わたしの教えを拒んだからだ。
エレ 26 章　（新共同訳）
26:1 ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの治世の初めに、主からこの言葉がエレミヤに臨んだ。
26:2「主はこう言われる。主の神殿の庭に立って語れ。ユダの町々から礼拝のために主の神殿に来るすべての者に向かって語るように、わたしが命じるこれらの言葉をすべて語れ。ひと言も減らしてはならない。
26:3 彼らが聞いて、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。そうすれば、わたしは彼らの悪のゆえにくだそうと考えている災いを思い直す。
26:4 彼らに向かって言え。主はこう言われる。もし、お前たちがわたしに聞き従わず、わたしが与えた律法に従って歩まず、

6:13「それは彼らが、小さい者から大きい者まで、みな不正な利をむさぼり、また預言者から祭司にいたるまで、みな偽りを行っているからだ。
6:14 彼らは、手軽にわたしの民の傷をいやし、平安がないのに『平安、平安』と言っている。
6:15 彼らは憎むべきことをして、恥じたであろうか。すこしも恥ずかしいとは思わず、また恥じることを知らなかった。それゆえ彼らは倒れる者と共に倒れる。わたしが彼らを罰するとき、彼らは倒れる」と主は言われる。
6:16 主はこう言われる、「あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。しかし彼らは答えて、『われわれはその道に歩まない』と言った。
6:17 わたしはあなたがたの上に見張びとを立て、『ラッパの音に気をつけよ』と言った。しかし彼らは答えて、『われわれは気をつけることはしない』と言った。
6:18 それゆえ国々の民よ、聞け。会衆よ、彼らにどのようなことが起るかを知れ。
6:19 地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災をくだす。それは彼らのたくらみの実である。彼らがわたしの言葉に気をつけず、わたしのおきてを捨てたからである。
エレ 26 章　（口語訳）
26:1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが世を治めた初めのころ、主からこの言葉があった、
26:2「主はこう仰せられる、主の宮の庭に立ち、わたしがあなたに命じて言わせるすべての言葉を、主の宮で礼拝するために来ているユダの町々の人々に告げなさい。ひと言をも言い残しておいてはならない。
26:3 彼らが聞いて、おのおのその悪い道を離れることがあるかも知れない。そのとき、わたしは彼らの行いの悪いために、災を彼らに下そうとしたのを思いなおす。
26:4 あなたは彼らに言いなさい、『主はこう仰せられる、もしあなたがたがわたしに聞き従わず、わたしがあなたがたの前に定めおいた律法を行わず、

26:5 倦むことなく遣わしたわたしの僕である預言者たちの言葉に聞き従わないならば――お前たちは聞き従わなかったが――
26:6 わたしはこの神殿をシロのようにし、この都を地上のすべての国々の呪いの的とする。」
26:7 祭司と預言者たちとすべての民は、エレミヤが主の神殿でこれらの言葉を語るのを聞いた。
26:8 エレミヤが、民のすべての者に語るように主に命じられたことを語り終えると、祭司と預言者たちと民のすべては、彼を捕らえて言った。「あなたは死刑に処せられねばならない。
26:9 なぜ、あなたは主の名によって預言し、『この神殿はシロのようになり、この都は荒れ果てて、住む者もなくなる』と言ったのか」と。すべての民は主の神殿でエレミヤのまわりに集まった。
26:10 ユダの高官たちはこれらの言葉を聞き、王の宮殿から主の神殿に上って来て、主の神殿の新しい門の前で裁きの座に着いた。
26:11 祭司と預言者たちは、高官たちと民のすべての者に向かって言った。「この人の罪は死に当たります。彼は、あなたがた自身が聞かれたように、この都に敵対する預言をしました。」
26:12 エレミヤは高官たちと民のすべての者に向かって言った。「主がわたしを遣わされ、お前たちが聞いたすべての言葉をこの神殿とこの都に対して預言させられたのだ。
26:13 今こそ、お前たちは自分の道と行いを正し、お前たちの神、主の声に聞き従わねばならない。主はこのように告げられた災いを思い直されるかもしれない。
26:14 わたしはお前たちの手中にある。お前たちの目に正しく、善いと思われることをするがよい。
26:15 ただ、よく覚えておくがよい、わたしを殺せば、お前たち自身と、この都とその住民の上に、無実の者の血を流した罪を招くということを。確かに、主がわたしを遣わし、これらのすべての言葉をお前たちの耳に告げさせられたのだか

26:5 わたしがあなたがたに、しきりにつかわすわたしのしもべである預言者の言葉に聞き従わないならば、(あなたがたは聞き従わなかったが、)
26:6 わたしはこの宮をシロのようにし、またこの町を地の万国にのろわれるものとする』」。
26:7 祭司と預言者およびすべての民は、エレミヤが主の宮でこれらの言葉を語るのを聞いた。
26:8 エレミヤが主に命じられたすべての言葉を民に告げ終った時、祭司と預言者および民はみな彼を捕えて言った、「あなたは死ななければならない。

26:9 なぜあなたは主の名によって預言し、この宮はシロのようになり、この町は荒されて住む人もなくなるであろうと言ったのか」と。民はみな主の宮に集まってエレミヤを取り囲んだ。
26:10 ユダのつかさたちはこの事を聞いて王の宮殿を出て主の宮に上り、主の宮の「新しい門」の入口に座した。

26:11 祭司と預言者らは、つかさたちとすべての民に訴えて言った、「この人は死刑に処すべき者です。あなたがたが自分の耳で聞かれたように、この町に逆らう預言をしたのです」。
26:12 その時エレミヤは、つかさたちとすべての民に言った、「主はわたしをつかわし、この宮とこの町にむかって、預言をさせられたので、そのすべての言葉をあなたがたは聞いた。
26:13 それで、あなたがたは今、あなたがたの道と行いを改め、あなたがたの神、主の声に聞き従いなさい。そうするならば主はあなたがたに災を下そうとしたことを思いなおされる。
26:14 見よ、わたしはあなたがたの手の中にある。あなたがたの目に、良いと見え、正しいと思うことをわたしに行うがよい。
26:15 ただ明らかにこのことを知っておきなさい。もしあなたがたがわたしを殺すならば、罪なき者の血はあなたがたの身と、この町と、その住民とに帰する。まことに主がわたしをつかわして、このすべての言葉をあなたがたの耳に、告げ

ら。」
26:16 高官たちと民のすべての者は、祭司と預言者たちに向かって言った。「この人には死に当たる罪はない。彼は我々の神、主の名によって語ったのだ。」
26:17 この地の長老が数人立ち上がり、の全会衆に向かって言った。

26:18「モレシェトの人ミカはユダの王ヒゼキヤの時代に、ユダのすべての民に預言して言った。『万軍の主はこう言われる。シオンは耕されて畑となり/エルサレムは石塚に変わり/神殿の山は木の生い茂る丘となる』と。
26:19 ユダの王ヒゼキヤとユダのすべての人々は、彼を殺したであろうか。主を畏れ、その恵みを祈り求めたので、主は彼らに告げた災いを思い直されたではないか。我々は自分の上に大きな災いをもたらそうとしている。」

26:20 主の名によって預言していた人がもうひとりいた。それは、キルヤト・エアリムの人、シェマヤの子ウリヤである。彼はこの都とこの国に対して、エレミヤの言葉と全く同じような預言をしていた。
26:21 ヨヤキム王は、すべての武将と高官たちと共に彼の言葉を聞き、彼を殺そうとした。ウリヤはこれを聞いて、恐れ、逃れて、エジプトに行った。

26:22 ヨヤキム王はアクボルの子エルナタンを、数人の者と共にエジプトに遣わした。

26:23 ウリヤはエジプトから連れ戻され、ヨヤキム王の前に引き出された。王は彼を剣で撃ち、その死体を共同墓地へ捨てさせた。
26:24 しかし、シャファンの子アヒカムはエレミヤを保護し、民の手に落ちて殺されることのないようにした。
エレ 32:6～15　（新共同訳）
32:6 さて、エレミヤは言った。「主の言葉がわたしに臨んだ。
32:7 見よ、お前の伯父シャルムの子ハナムエルが、お前のところに来て、『アナトトにあるわたしの畑を買い取ってください。あ

させられたからである」。
26:16 つかさたちと、すべての民とは、祭司と預言者に言った、「この人は死刑に処すべき者ではない。われわれの神、主の名によってわれわれに語ったのである」。
26:17 その時この地の長老たち数人が立って、そこに集まっているすべての者に告げて言った、
26:18 「ユダの王ヒゼキヤの世に、モレシテびとミカはユダのすべての民に預言して言った、『万軍の主はこう仰せられる、シオンは畑のように耕され、エルサレムは石塚となり、宮の山は木のおい茂る高い所となる』。
26:19 ユダの王ヒゼキヤと、すべてのユダの人は彼を殺そうとしたことがあろうか。ヒゼキヤは主を恐れ、主の恵みを求めたので、主は彼らに災を下すとお告げになったのを思いなおされたではないか。しかし、われわれは、自分の身に大きな災を招こうとしている」。
26:20 主の名によって預言した人がほかにもあった。すなわちキリアテ・ヤリムのシマヤの子ウリヤである。彼はエレミヤとおなじような言葉をもって、この町とこの地にむかって預言した。
26:21 エホヤキム王と、そのすべての勇士と、すべてのつかさたちはその言葉を聞いた。そして王は彼を殺そうと思ったが、ウリヤはこれを聞いて恐れ、エジプトに逃げて行ったので、
26:22 エホヤキム王は人をエジプトにつかわした。すなわちアクボルの子エルナタンと他の数名の人を、エジプトにつかわした。
26:23 彼らはウリヤをエジプトから引き出し、エホヤキム王のもとに連れてきたので、王はつるぎをもって彼を殺し、その死体を共同墓地に捨てさせた。
26:24 しかしシャパンの子アヒカムはエレミヤを助け、民の手に渡されて殺されることのないようにした。
エレ 32:6～15　（口語訳）
32:6 エレミヤは言った、「主の言葉がわたしに臨んで言われる、
32:7『見よ、あなたのおじシャルムの子ハナメルがあなたの所に来て言う、「アナトテにあるわたしの畑を買いなさい。それ

なたが、親族として買い取り、所有する権利があるのです』と言うであろう。」
32:8 主の言葉どおり、いとこのハナムエルが獄舎にいるわたしのところに来て言った。「ベニヤミン族の所領に属する、アナトの畑を買い取ってください。あなたに親族として相続し所有する権利があるのですから、どうか買い取ってください。」わたしは、これが主の言葉によることを知っていた。
32:9 そこで、わたしはいとこのハナムエルからアナトトにある畑を買い取り、銀十七シェケルを量って支払った。
32:10 わたしは、証書を作成して、封印し、証人を立て、銀を秤で量った。

32:11 そしてわたしは、定められた慣習どおり、封印した購入証書と、封印されていない写しを取って、
32:12 マフセヤの孫であり、ネリヤの子であるバルクにそれを手渡した。いとこのハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、獄舎にいたユダの人々全員がそれを見ていた。
32:13 そして、彼らの見ている前でバルクに命じた。
32:14「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。これらの証書、すなわち、封印した購入証書と、その写しを取り、素焼きの器に納めて長く保存せよ。

32:15 イスラエルの神、万軍の主が、『この国で家、畑、ぶどう園を再び買い取る時が来る』と言われるからだ。」
エレ 36:27～31　（新共同訳）
36:27 バルクがエレミヤの口述に従ってこれらの言葉を書き記した巻物を王が燃やした後に、主の言葉がエレミヤに臨んだ。
36:28「改めて、別の巻物を取れ。ユダの王ヨヤキムが燃やした初めの巻物に記されていたすべての言葉を、元どおりに書き記せ。
36:29 そして、ユダの王ヨヤキムに対して、あなたはこう言いなさい。主はこう言われる。お前はこの巻物を燃やしてしまった。お前はエレミヤを非難して、『なぜ、この巻物にバビロンの王が必ず来て、

は、これを買い取り、あがなう権利があなたにあるから」と』。
32:8 はたして主の言葉のように、わたしのいとこであるハナメルが監視の庭のうちにいるわたしの所に来て言った、『ベニヤミンの地のアナトテにあるわたしの畑を買ってください。所有するのも、あがなうのも、あなたの権利なのです。買い取ってあなたの物にしてください。これが主の言葉であるのをわたしは知っていました』。
32:9 そこでわたしは、いとこのハナメルからアナトテにある畑を買い取り、銀十七シケルを量って彼に支払った。
32:10 すなわち、わたしはその証書をつくって、これに記名し、それを封印し、証人を立て、はかりをもって銀を量って与えた。
32:11 そしてわたしはその約定をしるして封印した買収証書と、封印のない写しとを取り、
32:12 いとこのハナメルと、買収証書に記名した証人たち、および監視の庭にすわっているすべてのユダヤ人の前で、その証書をマアセヤの子であるネリヤの子バルクに与え、
32:13 彼らの前で、わたしはバルクに命じて言った、
32:14『万軍の主、イスラエルの神はこう仰せられる、これらの証書すなわち、この買収証書の封印したものと、封印のない写しとを取り、これらを土の器に入れて、長く保存せよ。
32:15 万軍の主、イスラエルの神がこう言われるからである、「この地で人々はまた家と畑とぶどう畑を買うようになる」と』。
エレ 36:27～31　（口語訳）
36:27 バルクがエレミヤの口述にしたがって筆記した言葉を載せた巻物を王が焼いた後、主の言葉がエレミヤに臨んだ、
36:28「他の巻物を取り、ユダの王エホヤキムが焼いた、前の巻物のうちにある言葉を皆それに書きしるしなさい。

36:29 またユダの王エホヤキムについて言いなさい、『主はこう仰せられる、あなたはこの巻物を焼いて言った、「どうしてあなたはこの巻物に、バビロンの王が必ず来てこの地を滅ぼし、ここから人と獣

この国を滅ぼし、人も獣も絶滅させると書いたのか』と言った。
36:30 それゆえ、主はユダの王ヨヤキムについてこう言われる。彼の子孫には、ダビデの王座につく者がなくなる。ヨヤキムの死体は投げ出されて、昼は炎熱に、夜は霜にさらされる。
36:31 わたしは、王とその子孫と家来たちをその咎のゆえに罰する。彼らとエルサレムの住民およびユダの人々に災いをくだす。この災いは、すべて既に繰り返し告げたものであるが、彼らは聞こうとはしなかった。」

とを絶やす、と書いたのか」と。

36:30 それゆえ主はユダの王エホヤキムについてこう言われる、彼の子孫にはダビデの位にすわる者がなくなる。また彼の死体は捨てられて昼は暑さにあい、夜は霜にあう。
36:31 わたしはまた彼とその子孫とその家来たちをその罪のために罰する。また彼らとエルサレムの民とユダの人々には災を下す。この災のことについては、すでに語ったけれども、彼らは聞くことをしなかった』。

火曜日　11月10日　メッセージを破壊する(その2)

預言の賜物に対する人間の反応は、さまざまな形を取ります。モーセの場合、イスラエルの子らは、約束の地に入ろうとする際に遭遇するであろう敵への恐怖に駆られ、モーセとアロンに対して公然と反抗しました。数百年後、ヨヤキム王(エホヤキム王)は神の預言の言葉を破壊しようと、神のメッセージを焼き捨てました(エレ36:22、23参照)。

しかし、これらは決して特殊な事例ではありません。古代イスラエルとユダの歴史は、ごくまれな例外を除いて、預言者を拒絶する歴史でした。

問5　歴代誌(歴代志)下 36:15、16 を読んでください。ユダの民は、神が預言者を通して彼らに送られたメッセージに、どう反応しましたか。神は最終的にユダの行動に、どう応じられましたか。

エレミヤの預言者としての働きは、ヨシヤ、ヨアハズ(エホアハズ)、ヨヤキム(エホヤキム)、ヨヤキン(エホヤキン)、そしてゼデキヤの治世にまで及びました。ネブカドネツァル(ネブカデネザル)が率いる王国バビロンは、今やユダ王国の目前に迫っていました。エレミヤの預言は、ゼデキヤという21歳の若者が王位に就いたとき、ほぼ成就しました(代下 36:11)。聖書はこう述べています――「彼は自分の神、主の目に悪とされることを行い、主の口から語る預言者エレミヤの前にへりくだらなかった」(同 36:12、英訳〔NKJV〕"He did evil in the sight of the Lord his God, and did not humble himself before Jeremiah the prophet, who spoke from the mouth of the Lord")。

エレミヤの預言の賜物がどのように描写されているか、注目してください。彼は、神の口から語る者と見なされています。それにもかかわらず、ゼデキヤはこの預言者の前にへりくだりませんでした。しかしエレミヤは、私たちと同じようにただの人間であり、罪人でしたが、主の代理人として、主に代わって語りました。

エレミヤは、そのような役割を担った多くの者の中の1人でした。何世紀にもわたって、神はご自分の民に預言者を遣わしてこられました(出 3:15、詩編〔詩篇〕

105:26、マラ 3:1、イザ 6:8、エレ 25:4、マタ 11:13、ルカ 11:49 など）。それは、「一人も滅びないで皆が悔い改めるように」〔口語訳「ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを」〕（Ⅱペト 3:9）望んでおられたからです。古代イスラエルとユダのこのような歴史は、彼らが悔い改めさえすれば救いを与えるという約束をもって、神が背信したご自分の民に絶えず手を差し伸べ続けてこられた物語なのです。

しかし、ユダの歴史のこの末期に、エレミヤの預言の声による導きと慰めを通してユダに差し伸べられた神の恵みは、謙遜、信仰、悔い改めをもって迎えられず、笑い、嘲笑、からかいをもって迎えられたのでした。

私たちは神の使者を嘲笑したり、神の言葉を軽蔑したりしないと言えますか。

49

エレ 36:22、23　（新共同訳）
36:22 王は宮殿の冬の家にいた。時は九月で暖炉の火は王の前で赤々と燃えていた。
36:23 ユディが三、四欄読み終わるごとに、王は巻物をナイフで切り裂いて暖炉の火にくべ、ついに、巻物をすべて燃やしてしまった。
代下 36:15、16　（新共同訳）
36:155 先祖の神、主は御自分の民と御住まいを憐れみ、繰り返し御使いを彼らに遣わされたが、
36:16 彼らは神の御使いを嘲笑い、その言葉を蔑み、預言者を愚弄した。それゆえ、ついにその民に向かって主の怒りが燃え上がり、もはや手の施しようがなくなった。
代下 36:11、12　（新共同訳）
36:11 ゼデキヤは二十一歳で王となり、十一年間エルサレムで王位にあった。
36:12 彼は自分の神、主の目に悪とされることを行い、主の言葉を告げる預言者エレミヤの前にへりくだらなかった。
出 3:15　（新共同訳）
3:15 神は、更に続けてモーセに命じられた。「イスラエルの人々にこう言うがよい。あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主がわたしをあなたたちのもとに遣わされた。これこそ、とこしえにわたしの名/これこそ、世々にわたしの呼び名。
詩 105:26　（新共同訳）
105:26 主は僕モーセを遣わし/アロンを選んで遣わされた。

エレ 36:22、23　（口語訳）
36:22 時は九月であって、王は冬の家に座していた。その前に炉があって火が燃えていた。
36:23 エホデが三段か四段を読むと、王は小刀をもってそれを切り取り、炉の火に投げいれ、ついに巻物全部を炉の火で焼きつくした。
代下 36:15、16　（口語訳）
36:15 その先祖の神、主はその民と、すみかをあわれむがゆえに、しきりに、その使者を彼らにつかわされたが、
36:16 彼らが神の使者たちをあざけり、その言葉を軽んじ、その預言者たちをののしったので、主の怒りがその民に向かって起り、ついに救うことができないようになった。
代下 36:11、12　（口語訳）
36:11 ゼデキヤは王となった時二十一歳で、十一年の間エルサレムで世を治めた。
36:12 彼はその神、主の前に悪を行い、主の言葉を伝える預言者エレミヤの前に、身をひくくしなかった。
出 3:15　（口語訳）
3:15 神はまたモーセに言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい『あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と。これは永遠にわたしの名、これは世々のわたしの呼び名である。
詩 105:26　（口語訳）
105:26 主はそのしもべモーセと、そのお選びになったアロンとをつかわされた。

マラ 3:1　（新共同訳）
3:1 見よ、わたしは使者を送る。彼はわが前に道を備える。あなたたちが待望している主は/突如、その聖所に来られる。あなたたちが喜びとしている契約の使者/見よ、彼が来る、と万軍の主は言われる。
イザ 6:8　（新共同訳）
6:8 そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」
エレ 25:4　（新共同訳）
25:4 主は僕である預言者たちを倦むことなく遣わしたのに、お前たちは耳を傾けず、従わなかった。

マタ 11:13　（新共同訳）
11:13 すべての預言者と律法が預言したのは、ヨハネの時までである。
ルカ 11:49　（新共同訳）
11:49 だから、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する。』
Ⅱペト 3:9　（新共同訳）
3:9 ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。

マラ 3:1　（口語訳）
3:1「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。
イザ 6:8　（口語訳）
6:8 わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」。
エレ 25:4　（口語訳）
25:4 主はたゆまず、そのしもべである預言者を、あなたがたにつかわされたが、あなたがたは聞かずまた耳を傾けて聞こうともしなかった。
マタ 11:13　（口語訳）
11:13 すべての預言者と律法とが預言したのは、ヨハネの時までである。
ルカ 11:49　（口語訳）
11:49 それゆえに、『神の知恵』も言っている、『わたしは預言者と使徒とを彼らにつかわすが、彼らはそのうちのある者を殺したり、迫害したりするであろう』。
Ⅱペテ 3:9　（口語訳）
3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

水曜日　11 月 11 日　偽善

あなたは、過去にほかの人が行ったことを見て、「もし私だったら、あんなことは絶対にしなかったのに！」と思ったことはありませんか。しかし、自分自身に正直であれば、私たちはほかの人とまったく同じことをしないまでも、しばしば同じような行動を取り、同じ過ちを繰り返しながら、自分が実際に行っていることから故意に目を逸らしているかもしれません。これは、イエスご自身が次のように言われたときに示された原則です――「偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる」〔口語訳「偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるだろう」〕（マタ 7:5）。

問6　マタイ 23:30～35 を読んでください。イエスはここで、どんな重要でありながらも痛烈な指摘をなさっておられますか。この言葉から、私たちはどんな警告を受け取るべきでしょうか。

これらの聖句からは、イエスがファリサイ派の人々（パリサイ人）の行いを憎んでおられたことが感じ取れます。なぜなら、彼らの偽善が、変わろうとしない強固な拒絶によって一層悪質なものになっていたからです。イエスはファリサイ派の人々（パリサイ人）の宗教にうんざりしておられました。丈の長い衣をまとった霊的エリートたちは、死者の骨で満たされた白く塗った墓と大差なく、イエスは彼らに見切りをつけられたのです（マタ 23:27、28）。彼らは、たとえ罪を指摘されても、イエスが何度も悔い改めて救われる機会をお与えになっても、罪を告白したり、捨てたりしようとしませんでした。

このような人たちと関わる中で、イエスが彼らを「偽善者」と呼ばれたのも無理はありません。その言葉は、しばしばこのようなものでした――「偽善者である律法学者、ファリサイ人よ、あなたがたは災いである」〔口語訳「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである」〕（マタ 23:14、15、23、25、27 参照）。

彼らの生き方は、まさに言行不一致の特徴を持っていました。預言者に対する彼らの態度も同じでした。例えば、彼らは、預言者の墓を美しく飾ることでその信仰を称えているつもりでいましたが、肝心なこと、すなわち預言者の言葉に従って悔い改めることなどは拒んだのです。彼らは、自分たちのイメージを預言者の力や悲哀に結びつけたいと思っていましたが、預言者のメッセージの内容に結びつけたいとは思っていませんでした。神の僕たちの墓や霊廟を磨きながら、「もし自分たちだったら、神の使者の血を流すことなど絶対にしなかったのに」と、彼らは心の中で考えていたのです。しかし、まさにその時、彼らは預言者以上の存在、メシアご自身を殺害しようと計画していました。

【参考】英語テキストにある文

How do we make sure that in principle, we don't do the same thing: outwardly acting religious while inside being full of rebellion and greed and hate?

表向きは信仰深く振る舞いながら、内心は反抗心や貪欲さ、憎しみに満ちているという、これと同じような過ちを繰り返さないようにするには、原則として、私たちはどうすればいいでしょうか。

50

マタ 7:5　（新共同訳）
7:5 偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。
マタ 23:30～35　（新共同訳）
23:30 そして、『もし先祖の時代に生きていても、預言者の血を流す側にはつかなかったであろう』などと言う。

マタ 7:5　（口語訳）
7:5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるだろう。
マタ 23:30～35　（口語訳）
23:30『もしわたしたちが先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流すことに加わってはいなかっただろう』と。

23:31 こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫であることを、自ら証明している。
23:32 先祖が始めた悪事の仕上げをしたらどうだ。
23:33 蛇よ、蝮の子らよ、どうしてあなたたちは地獄の罰を免れることができようか。
23:34 だから、わたしは預言者、知者、学者をあなたたちに遣わすが、あなたたちはその中のある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと追い回して迫害する。

23:35 こうして、正しい人アベルの血から、あなたたちが聖所と祭壇の間で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の血はすべて、あなたたちにふりかかってくる。
マタ 23:27、28　（新共同訳）
23:27 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。
23: 28 このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えながら、内側は偽善と不法で満ちている。
マタ 23:14、15　（新共同訳）
23:14 †

23:15 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。改宗者を一人つくろうとして、海と陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからだ。

マタ 23:23、25、27　（新共同訳）
23:23 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。薄荷、いのんど、茴香の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もないがしろにしてはなら

23:31 このようにして、あなたがたは預言者を殺した者の子孫であることを、自分で証明している。
23:32 あなたがたもまた先祖たちがした悪の枡目を満たすがよい。
23:33 へびよ、まむしの子らよ、どうして地獄の刑罰をのがれることができようか。
23:34 それだから、わたしは、預言者、知者、律法学者たちをあなたがたにつかわすが、そのうちのある者を殺し、また十字架につけ、そのある者を会堂でむち打ち、また町から町へと迫害して行くであろう。
23:35 こうして義人アベルの血から、聖所と祭壇との間であなたがたが殺したバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上に流された義人の血の報いが、ことごとくあなたがたに及ぶであろう。
マタ 23:27、28　（口語訳）
23:27 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである。
23:28 このようにあなたがたも、外側は人に正しく見えるが、内側は偽善と不法とでいっぱいである。
マタ 23:14、15　（口語訳）
23:14〔偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。だから、もっときびしいさばきを受けるに違いない。〕
23:15 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたはひとりの改宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。そして、つくったなら、彼を自分より倍もひどい地獄の子にする。
マタ 23:23、25、27　（口語訳）
23:23 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。はっか、いのんど、クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならないが、これも見のがしてはなら

ないが。
23:25 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。
23:27 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。

ない。
23:25 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲と放縦とで満ちている。
23:27 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである。

木曜日　11月12日　私たちにとっての勧告

旧約聖書のこういった記事はみな、どれほど卑劣で悲惨なものであるにしろ、もっともな理由があって伝えられました。理想的には、私たちがそれらから、神に反抗するとどんなことが起きるかについて、教訓を得るためです。

問7　Ⅰコリント 10:6～12 を読んでください。使徒パウロによれば、神はなぜ預言者たちに霊感を与え、彼らが聖書に記したことを書かせられたのですか。

この箇所でパウロは、過去と現在、古代イスラエルと教会を直線で結びつけています。イエスを主として、また救い主として受け入れた私たちも、今やその教会の一員です(ガラ 6:14～16)。

パウロは、神との人類の経験に関する過去の記録は、それが良いものであれ、悪いものであれ、見過ごされたり、軽んじられたりしてはならないことを明らかにしています。実際、神はそれを非常に重要なものとお考えになり、「彼ら〔私たちの先祖〕が悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために」〔口語訳「彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないため」〕(Ⅰコリ 10:6)、前例として成文化されました。言い換えれば、過去はしばしば未来への序章であり、過去はしばしば、現在起こっていることや将来起こることの背景を形作るのです。

つまり神は、私たちが聖書の勧告と、神が預言者を通して私たちに与えてくださった預言的メッセージに耳を傾けさえすれば、過去の世代の過ちを繰り返す運命にはないと言っておられるのです。もし私たちがそれに耳を傾け、学び、従うなら、私たちは確かに生かされ、勝利を得ることができるでしょう(代下 20:20)。ある人たちにとっては、霊的な繁栄でさえ、立派な家、車、衣服、そのほかの物質的な財産を持つことだと定義されてきました。神は私たちの必要を満たすと約束しておられますが、同時に、私たちがほかの面で恵まれるのと同様、私たちの魂が恵まれることも望んでおられるのです(Ⅲヨハ 2)。しかし、クリスチャン生活において真に永続的な霊的充足を得るには、神のメッセージに従うことが必要です。

神は言葉を無駄にされません。神が語られるとき、その言葉は永遠なのです。

その力と効力が尽きることはありません(イザ 40:8)。神の言葉は、「時の終わりに直面している」〔口語訳「世の終りに臨んでいる」〕(Ⅰコリ 10:11)私たちにとっての勧告として与えられています。もしそれが当時において真実であったのなら、その言葉はなおさら今日の私たちに当てはまるのではないでしょうか。

【参考】英語テキストにある文

When you read accounts in the Bible of rebellion and disbelief, what lessons can you draw from them that could help you avoid doing something similar?

聖書にある反逆や不信仰の記述を読むとき、自分自身が同じような過ちを繰り返さないために、そこからどのような教訓を導き出すことができますか。

51

Ⅰコリ 10:6～12　(新共同訳)

10:6 これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。
10:7 彼らの中のある者がしたように、偶像を礼拝してはいけない。「民は座って飲み食いし、立って踊り狂った」と書いてあります。
10:8 彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしよう。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。
10:9 また、彼らの中のある者がしたように、キリストを試みないようにしよう。試みた者は、蛇にかまれて滅びました。
10:10 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言ってはいけない。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。
10:11 これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。
10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

ガラ 6:14～16　(新共同訳)

6:14 しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。
6:15 割礼の有無は問題ではなく、大切な

Ⅰコリ 10:6～12　(口語訳)

10:6 これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。
10:7 だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、「民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた」と書いてある。
10:8 また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。不品行をしたため倒された者が、一日に二万三千人もあった。
10:9 また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。
10:10 また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。

10:11 これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。
10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

ガラ 6:14～16　(口語訳)

6:14 しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。
6:15 割礼のあるなしは問題ではなく、た

のは、新しく創造されることです。

6:16 このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。
代下 20:20　（新共同訳）
20:20 翌朝早く、彼らはテコアの荒れ野に向かって出て行った。出て行くとき、ヨシャファトは立って言った。「ユダとエルサレムの住民よ、聞け。あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。」
Ⅲヨハ 2　（新共同訳）
2 愛する者よ、あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています。

イザ 40:8　（新共同訳）
40:8 草は枯れ、花はしぼむが/わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。

だ、新しく造られることこそ、重要なのである。
6:16 この法則に従って進む人々の上に、平和とあわれみとがあるように。また、神のイスラエルの上にあるように。
代下 20:20　（口語訳）
20:20 彼らは朝早く起きてテコアの野に出て行った。その出て行くとき、ヨシャパテは立って言った、「ユダの人々およびエルサレムの民よ、わたしに聞きなさい。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう」。
Ⅲヨハ 2　（口語訳）
2 愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。
イザ 40:8　（口語訳）
40:8 草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変ることはない」。

金曜日　11 月 13 日　彼女のメッセージを受け取り、伝える

エレン・ホワイトの孫であり、エレン・G・ホワイト著作刊行会の元所長であったアーサー・ホワイトは、彼の祖母が生涯のうちに数百の幻と預言的な夢を見たと推定しています。その幻は、数分から数時間にわたって続き、時には大勢の人によって目撃されました。公の場でそのような現象が起こった際には、彼女に懐疑的な人たちでさえ彼女を観察する機会を得たこともありました。

聖書の預言者たちと同様、エレン・ホワイトも幻を見ているときに超自然的な現象を経験しました。1868年、ジェームズ・ホワイトは、幻を見ている最中のエレン・ホワイトの状態を詳細に記述しています。彼女は、「周囲で起こっているすべてのことにまったく無意識で」、呼吸をしていませんでしたが、動きや身振りは「自由で優雅」であり、目は開いていました。幻から覚めたあと、一時的に視力を失いましたが、視力に異常はありませんでした。幻がいつ始まり、どれほど続くかは、誰にも制御できませんでした。なぜなら、たいていの場合、幻はエレン・ホワイト自身にとっても予期せぬものだったからです（ジェームズ・ホワイト『人生の出来事』271～274ページ、英文参照）。

【参考】英文は以下の通り

“utterly unconscious of everything transpiring around her”; she did not breathe; her muscles became “rigid” and her “joints fixed”; her movements and gestures were “free and graceful”; and her eyes were open. After coming out of vision she would temporarily lose

sight, yet her eyesight was not impaired. No one could control when or how long she would be in vision, as the visions were usually unexpected by Ellen White herself. (See James White, Life Incidents, pp. 271–274.)

聖書の時代と同様、メッセージに対する人々の反応はさまざまでした。神の勧告を受け入れる人もいれば、拒絶する人もいました。エレン・ホワイトが次のように述べているとおりです――「神はご自分の民を戒める者として私をお立てになった。そして……神が私にこの重い責任を負わせられたように、このメッセージを与えられた人々は、それをどう扱うかについて責任を負わされるであろう。……私は自ら進んでこの不愉快な務めを選んだのではない。これは人々からの好意や称賛をもたらす働きではない。……私のあがない主の御名と力によって、私はできることをするだろう。人々が聞き入れようが、拒もうが、御霊の命じるままに、私は警告し、勧告し、戒め、励ます。私の義務は、自分を喜ばせることではなく、私にこの働きをお与えになった天の父の御心を行うことなのだ」(『教会への証』第4巻 231、232ページ、英文)。

【参考】―― Testimonies for the Church, vol. 4, pp. 231, 232.

"God has set me as a reprover of His people; and . . . as He has laid upon me the heavy burden, He will make those to whom this message is given responsible for the manner in which they treat it. . . . I have not chosen this unpleasant labor for myself. It is not a work which will bring to me the favor or praise of men. . . . In the name and strength of my Redeemer I shall do what I can. I shall warn and counsel and reprove and encourage as the Spirit of God dictates, whether men will hear or whether they will forbear. My duty is not to please myself, but to do the will of my heavenly Father, who has given me my work."

興味深いことに、彼女の預言的メッセージを拒絶した人々の多くは、神学的な理由に基づいてではなく、彼ら自身の不信仰やエレン・ホワイトとの個人的な意見の相違に基づいて、そうしたのです。エレン・ホワイトは、彼女の預言の賜物に懐疑的な態度を示した人々に対して非常に寛大でした。実際、彼女は、そのような人々には、「彼らが自分たちの立場を見いだし、賛成か反対かの態度を確立するまで、……忍耐強さと兄弟愛」(『教会への証』第1巻 分冊2・125 ページ)をもって接するべきであると明確に述べています。

エレン・ホワイトは、自分の預言の賜物の真の証拠は、神から与えられたメッセージであると確信していました。人々が誠実に真理を探求しているなら、彼女の賜物が本物だとわかるようになると信じていたのです。彼女は、神が彼らをより深い理解へ導いてくださると、神に信頼していました。

52